

「和の国」の信頼 なぜ裏切る

大学教員

(山梨県 54)

カンボジアの農村で仕事をしていた時、自己紹介をした。「和子は平和の子」という意味。両親は若い時に戦争を経験した。自分の子供が生きる時代は戦争がない、平和な時代になるように。願わくはこの子が平和な世の中づくりに貢献するように。そんな願いが込められている」と。

内戦で多くの苦しみを経験したカンボジアの人たちは口々に「よい名前だ」と言ってくれた。誰かが「正義」のために始めた戦争でも、傷つく人たちがいる。武力を用いれば、必ず武力

で返ってくる。武力を用いた平和づくりは、あつてはならない。「日本は二度と戦争をしないと憲法で決めている。平和的解決にのみ関わる国だ」と話すと、多くの国の友人たちが素晴らしいと言ってくれた。

この信頼を裏切る国に日本はなろうとしている。武力を持って外に出て行かない。これこそが世界に誇る日本の真の強さ、美しさだった。なぜそれを捨てるのか。武力で「正義」を実現しようとする国に認められるよりも、痛みや苦しみを知らる人に信頼されることを選ぶ。そんな真のリーダーがいる国の一員でありたい。

安保国会 大人の振る舞いか

高校生

(大阪府 17)

テレビをつけて失望した。安全保障関連法案の国会審議。争い、叫び、悪口を言う政治家たち。こんな大人が日本を動かしている。人はみんな違う。考え方もそれぞれ違う。でも人は関わり合って生きていくものだ。「どうすれば相手に伝わるかよく考え、相手の考えにもしっかりと耳を傾ける」と「納得できるまで話し、自分に間違いがあったら素直に認め、決して卑怯なことはしない」。そう教えられてきた。でも、中学、高校と世界が広がるにつれ、残念ながら現実とは違ふことを見事に見

せてくれる大人が次々に現れた。私を生意気という大人も多くなるだろう。でも言いたい。日本を動かしている方々に。あなた方の言動を将来この国を背負う若者や子どもたちがどう思っているか。

「戦争はいけない。でも、この国を守らなければならぬ」と誰かが思っている。それをどう実現するか。意見が分かれても相手を根本的に否定するのではなく、しっかりと話し合い、認めるべきところは認める。大人は子どもにどう教えるではないか。

私は、この国が大好きだ。だから、この国を動かす人たちのみっともない姿を二度と見たくない。